

寄贈 秋山文庫 (伊勢酒台風水入本) 昭36修理製本

齋藤小兵衛由緒

桑名市立図書館

秋山文庫

2-417

1

安命准草抄 多りの舟

光格天皇法隆号

大樹公法隆位

論和戰得朱公 論山後談

後田家再 傍規録子

齋藤小兵衛由緒書

尾州智多郡阿古居邑久松堂者菅家之苗裔也代仕朝廷至重久松丸有故乃謫任野間大進院邑人以其為云族黨稱唯呼久松殿子孫因以久松為成此後亂到久松彈正左衛門尉道定之時領智多郡阿古居庄此庄尾州所以斯波氏為國主當氏之攸論之內梅彈正左衛門尉道定參籠此野大神之暇於神前揚盃忽示梅花飛來浮盃中稱此奇瑞而名梅鉢為家之攸云當氏系因元龜之兵亂為紛失赤葉之士取日記之侵山田御師梅公大夫預之良有尋求記記者也

道定

從五位下

久松彈正左門

定則

新左門尉後

正勝

大膳大夫

道綱

次即左門尉後

定氏

左京進從四位侍從定氏有女子各男子一色

道勝 大即左門尉

從五位下

與了少捕滿負養三男詮定為子以女子妻余世家業

詮定

久松三郎左門尉後改兵庫久松五位下
安一色兵了少捕滿貞之男也

範勝

久松治兵衛尉後改兵庫久松
五位下有能言名

定光

久松左京大夫後改
豐前守流五位下

定益

久松肥前守
五位下

定義

久松三郎左門尉小名源四郎
又中亞

定俊

板部城主三郎左門
改肥前守

板部之城主定益與大野佐治接隣有隙故日夜挑戰若事急成之時其登

鳥菟山鳴鐘吹貝則自板屋小川馳赴救之又板屋小川有事時自阿古居

馳行救之別屋藤右門大夫小川四郎右門尉其定益之妹又与佐治挑戰到

佐渡守俊勝之時不止天文十五年秋參州之大守廣忠云頻因被得和議始

其時佐治平和此時自廣忠云賜慶賀之書其後以廣忠云今俊勝長男源九

久松源九郎

久松佐渡守

定貞

久松源九郎

信平

源九郎

我春

久松土佐守

松平氏

松平氏改

道良

久松末女

初名源九郎功諱長家後改俊勝

家康云之御母也永祿
三庚申年五月今川義元尾州出張

東照權現寺時御年十九歲救
大高城巡見時渡御于智多郡以此入御于阿古居館母云并繼父佐渡守俊

勝始御對面一度滅滅一度歡喜于時同母弟三人三郎太郎源三郎長福在

座右長福母隱岐守少將定勝也

家康云賞愛之曰我兄弟少以往可
為同姓仍賜松平氏且曰參州平均之後可為創業之資母云曰就中長福也

當年生產即自襁褓中有相見之喜幸最甚其時俊勝奉一獻進呈西種奇

物長刀螺貝又此時辱辱同平野久藏竹内久六被下旧旁之仰昔時

家康云熱田奈古屋御生之時自阿古居路程僅一日往返故日夜回寒温被

送衣類菓肴常此兩士為音問之使同年東三州御進奈之時佐渡守率

自己之軍勢并灼屋之軍勢在先陣攻山中医王山之出城之時佐渡守為先

登從城壁上以鎗突佐渡守鐘肩程仍斬折其鎗提之下知曰城已破早可放

火是以即時落去永禄五年因服部計襲西郡鴉殿之城拔之此時西郡

城賜佐渡守即三郎太郎令領之後勝在岡崎城常為守警衛尾州阿古居

庄者置長兼跡九郎令領之

廣元 一五下以平因幡守名三郎太郎勢別長為之大守以平佐渡守先祖也
御大府卿 家康之御孫也且其松平之累因三有

後 後五位下禮前 松平三郎今松平重前守也
母者右同 且其松平重前守也

人勝 末名少將通四上松平德政守重名長福又二十四郎母共右同
豫州松山松平德政守同治松平美作守勢別名松平越守等先祖也

勝長 存藤氏 存藤次郎名重名伊勢松母者存藤淨入小云者
祖也

女 母龜通院 松平与一即源忠 御大方様

女 母室內膳家康母 家康云之御大方也後勝三州岡崎在時名遣之女生座

女 後嫁松平与二即 內室御大方之孫甚恐堅隱弟久松土佐守義春 先祖也

女 忠吉生伊豆守信 尾州智多郡阿古居庄城主也仍于岡崎預置也

女 吉右馬允忠賴其 然处義春年未ノ敵不意押寄折節城内守勢也義春

女 後嫁保科淨三源 即等ノ共ニ勇ヲ勵レ戦ケレ不叶義春於此討死ニ子

女 三直生三貞北條 大膳因為幼少家臣池川健之助抱テ參州吉田藩行

女 出羽守氏重并要 時ニ伊勢松三歲家臣竹内四五兵衛戶塚彦六 先祖也

女 元和 六月廿卒 松平隱

女 母同 松平丹波守康盛室

女 母同 松平玄蕃以源家清室

女 母同 一色帶刀室

改守家臣戸塚 西人抱テ内縁ニ因テ勢州松坂、落行数年竹内四五兵衛

才覚ヲ以テ養育ス然処隠岐守少将定勝云竹内久六ヲ以テ国ニ尋玉ヒ

竹内久六松平陸崎守家 松坂ヨリ尋出則下妻之城、以取成人之後定

勝云仰テ元服ス若 御大方様ノ答ヲ恐テ本名ヲ不名兼母方斎藤

ヲ名兼勝長以謂今通ク本国ノ鮫ト雖身不運ニ本名ヲモ不名

兼勝トノ日月ヲ送ル口惜次第ト数年心勞スルニ仍テ長病受煩

死存生召仕之女ニ子産赤子之時勢州松坂ニ家臣竹内四五兵衛

町人ト成テ居住ス彼カ本ニ遣フ僧ニ成レ堅ク武士ニ成間敷音申遣

伊勢松當歳之時京内竹内四五兵衛戸塚彦六堤仁介三人相添尾

州阿古宿落行ニ我春伊勢松ニ春子ト云テ男ニ定メ大膳参州吉田

行トアル本町酒屋五郎左門方(意行)也五郎左門妻ハ我春妻ノ

娘ニ大膳ノ姉也伊勢松ハ家臣四五兵衛彦六仁介三人供テ勢州

松坂本勝浄入方ノ落行浄入貧賤ナル故四五兵衛酒ヲ参州吉田五郎

左門所ヨリ取来リ市賣シテ伊勢松ヲ数年養育或寸吉田渡海ナシ

中ニ海賊ニ逢時四五兵衛強クシル工(盜賊)数人ヲ射殺ス此武勇ヲ恐

テ其後四五兵衛船ニ害ヲ不成由伊勢松元服之時 少将定勝公ヨリ武

具ヲ揃給テ京都禁裡御焼失ノ寸類焼テ幕圍焼殘四五兵衛子孫

勢州松坂酒屋ト成在任ニ戸塚彦六子孫ハ松平義作守ニ奉云今

在堤仁介後仁左門下改又入道ニテ三清ト云一生無妻ヲ子孫ナ

松坂西之庄ヲ死長命ナリ

五郎左門孫意悦針匠トナリ
妹妙三北野五寺ニ住ス

淨入者越後上杉謙信輝虎之家臣谷藤下野守子也兄五春藤八
屋門ト云輝虎云蒙臣守佐神駿河守妻六下野妹タル故淨入八左門カ
伯母也駿河守ナキニ依テ八左門ニ歳ノ十駿河養子ト九越後実国ヲ
大雪降積ル大イロリテ燒火ニテアリ居ル処へ抱守八左門ヨリテ
申トテ取落シ半身コカレ不具トナル仍テ仕官ヲ止逼塞ス駿河長尾政
景ト越後野尻ノ池ヲ打果入水ニテ忠臥金銀ヲ財越後ヨリ退相州鐘
倉津橋村ニ蟄居定徳神流ノ軍法鍛錬故久松佐渡守同土佐守房子
トナリ其婿トシテ淨入娘ヲ土佐守ニ預ケ台仕トナル此娘ナリ八左門ニ
生テ妻トシテ軍守重云云云云松平越中守定綱大坂出陣ノ收鍾倉八左工
門宅ニ生ヨリ軍法傳授人重左門 定綱云武勇ノ感守佐神駿

河原領ノ御威

為金子白由由九津大坂居陣之時家臣兵藤八右門ヲ以テ總意之礼
ヲ送ル八右門ハ百歳ノ花ハ駿河傳來ノ軍書武高禁裡灸上ニ類
燒之時勝心十三歳ニ五月八日也

勝秀

勝長一子童名伊勢松後小兵衛ト云松平越中守定綱ニ仕
遊去之時入道ノ小入ト改勝秀赤子ノ父勝長遺言ニ仍家臣四五兵
衛カ本行数年勢州松坂居任ス然処松平定綱云伊勢參宮之時伊勢
松ヲ尋ズト四五兵衛同道ニ對面時四五兵衛白髮ノ老人眼中ニ淚
ヲ浮ハ一度ノ恨一度ノ悦昔物語ヲ仕定綱云老人之旧旁ラ感老色ハ
宥メ伊勢松ヲ取テ予肯約召連江ノ故玉元服ヲ奪勝小兵衛ト

名乘昼夜 定綱云前任 定綱云逝者法名大鏡院殿ト号ス武力天
茨寺ニ納賧勝秀入道ト云小入ト改 大鏡院殿處所私平大學後
部右門内録家臣久松十郎五門與平八郎五門小入以上五人石
塔竈建ル現ニ有小入死行年五十八靈灰寺ニ納

小入町人ト成意赴其親勝長遺言ニ依テ僧ニ可成身死故ニ武士ト止ル
右灯笼建事者 大鏡院殿遺言ニ仍也子孫ニ至テ一族ノ好身ヲ諸
人疑ル也 定綱云頼ヨリ京位ニ亂世中節向者ヨリ可内通之
由大切之深理之役ヲ勤ル死ル寸養子勝山ニ成タルニ依テ家頼三清後
儀ニ定綱ニ御之深理ヲ授ケ此子十五歳ニ成時可勤生得テハ
後同ノ大切之儀ニ改大形口傳ヲ以テ申置也三清受テ勝山十五歳

之時勢州松坂西之庄ニテ是傳フ

勝正 香藤小平童名小次郎勢州素名松平越中守定童ニ任万治五

五月廿二日武州江戸中橋ト云所ニ生ニ歳ノ時京師ニ登リ信勝正実
父者久松治兵衛吉忠也小入妻妻ノ子也仍テ同氏名故ニ養子ニ
テ家ヲ傳フ母者吉忠妻也十五歳之時役儀ノ口傳并 定綱云遺言
小入遺言ヲ三清ヨリ勢州松坂西ノ庄ニテ傳フ

勝義 小次郎童名寛藏母者名仕之女貞享四年四月朔日油小路通下五
賣下ル町ニ生

勝保 小八郎童名又藏日云元禄己巳年五月廿五日新町通罗光町ニ生
女 藏後三代ト云元禄四年未年同所ニ生濱州岐阜柴田四郎兵衛ノ嫁ス

富藏 元禄六癸酉年五月二日同所生

女 留元禄七甲戌年九月八日同所生津田前嶋下云所養子連云

又五郎 元禄十二巳卯年六月廿九日同所生山城国西国牛力背下云村小西武

兵衛養子下成名新十郎下改

女 豐元禄十三庚辰年十月七日同所生柳馬場四条共町平田作十郎嫁云

勝滿 童名勝九郎後小兵衛下云元禄十二癸未年二月廿日爲九通錦小路

上町三丁生

重次郎 宝永四丁亥年六月七日錦小路新町西入町三丁生新町通三条下町大

倉市十郎養子下成後藤七下改

女 寛保二年壬午三月錦小路通新町西入町三丁生柳馬場四条上九町

平田作十郎養子下成

女 佐世延享元甲子五月於同所生丹波馬路中川平藏養子

勝栄 文次郎寛延元戌辰年十月於同所生

以和八年存蘇之系云云

梅谷家 菅原姓 本名梅田

一 天照皇太神宮第二皇子天德日命十四世右大臣菅原通真云系裔

也代尾州知多郡英比庄矢口仁住道真云云九世道標之嫡子標定者久

松家祖次男標長者梅谷家祖也標長ヨリ廿八代長房代ニ至テ勢州仁住

爲神職尔時尾州知多郡英比庄城主久松彈正左卫門尉道定云者共菅原

姓久松丸之後胤同姓之以好為且家領地英比庄其生產之所故^{是又}為
且家代神宮本仕嫡子長時代至 後花園院御宇宝徳年中権
祢宜補賜荒木田姓因茲長時ヲ以梅谷家中與也云、

一長時ヨリ十代重輔代仁至久松彈正左門道定云十世肥前守定益云亨禄
三庚寅年六月御参宮梅谷家二七日御止宿七日満日於神前献御供其神
酒頂戴既揚益於給時梅花也未忽浮益中宮地尋在每梅木殊不時梅花
以祢奇瑞尔時御家御紋未定因茲梅花被御紋名号梅鉢此時重輔令
供奉未代迄梅谷家モ可同紋者蒙嚴命益被為當宮御信仰也

何御代久松家御系因一卷梅谷重輔被預置云、

長時ヨリ十三代梅谷ノ代扱部城主道定云十二世定俊云御代天正五丁
丑年七月十九日扱部城兵火此寸御家之御系^ハ為焼失其后扱部城御
再興之判定益云被預置処之御系因ヲ忠長指上之定俊云御家御系因
不断事御悦喜有之云、

右ノ道 秘家系ヲ令し得^ル中興也時ヨリ松ノ代迄^ハ實為事
各用^ル云々夫裁云上ノ^ハヨ

右ノ^ハ元正年 定信云、^ハ松ノ家ノ^ハ定信ノ子好^ク事^ス也^ハ云々
家入 御覽

土橋 卯乃 中興者

一高橋 又 忠

土橋 又 忠

高橋 又 忠

父辛卯年... 土橋市... 光政

大正... 土橋市... 光政

土橋市... 光政

一 宣徳七年九月... 土橋市...

一 宣徳十二年八月... 土橋市...

一 宣徳十四年... 土橋市...

一 又... 土橋市...

一 宣徳... 土橋市...

宣徳... 土橋市...

宣徳... 土橋市...

宣徳... 土橋市...

一 宣徳... 土橋市...

一 宣徳... 土橋市...

宣徳... 土橋市...

一 宣徳... 土橋市...

一 宣徳... 土橋市...

宣徳... 土橋市...

宣徳... 土橋市...

宣徳... 土橋市...

石川寺
灯籠
六
細代
灯籠
五
中野
灯籠
四
中野
灯籠
三
中野
灯籠
二
中野
灯籠
一

上野
灯籠
七
上野
灯籠
八
上野
灯籠
九
上野
灯籠
十
上野
灯籠
十一
上野
灯籠
十二
上野
灯籠
十三
上野
灯籠
十四
上野
灯籠
十五
上野
灯籠
十六
上野
灯籠
十七
上野
灯籠
十八
上野
灯籠
十九
上野
灯籠
二十

芝山
灯籠
二十一
芝山
灯籠
二十二
芝山
灯籠
二十三
芝山
灯籠
二十四
芝山
灯籠
二十五
芝山
灯籠
二十六
芝山
灯籠
二十七
芝山
灯籠
二十八
芝山
灯籠
二十九
芝山
灯籠
三十

松井
灯籠
三十一
松井
灯籠
三十二
松井
灯籠
三十三
松井
灯籠
三十四
松井
灯籠
三十五
松井
灯籠
三十六
松井
灯籠
三十七
松井
灯籠
三十八
松井
灯籠
三十九
松井
灯籠
四十

法井
灯籠
四十一
法井
灯籠
四十二
法井
灯籠
四十三
法井
灯籠
四十四
法井
灯籠
四十五
法井
灯籠
四十六
法井
灯籠
四十七
法井
灯籠
四十八
法井
灯籠
四十九
法井
灯籠
五十

中野
灯籠
五十一
中野
灯籠
五十二
中野
灯籠
五十三
中野
灯籠
五十四
中野
灯籠
五十五
中野
灯籠
五十六
中野
灯籠
五十七
中野
灯籠
五十八
中野
灯籠
五十九
中野
灯籠
六十

一陽其此様沖入興心列本

一のりくの中
金の四寸前段 一に
左織中人 幸何

芝言行ノ列心ノ只良具

一 中層風 八第 一 中層掛 一第

一 中層柳 一第 一 中層の巻 一第

一 中層子 一第 一 中層架 二第

一 中層中 一第 一 中層板 三第

一 中層 一第 一 中層壁 十七第

世宮吹心ノ良具

一 中層 十第 一 中層板 三第

一 中層 一第 一 中層板 一第

中層立 六 一 中層板 一第

一 中層入木持 一第 一 中層板 一第

一 中層板 二 一 中層板 三十第

右書持木棹 中層四人 左書持木棹 中層一人 左書持木棹 中層一人
右書持三人 左書持一人 中層板 中層板 中層板

右書持木棹 中層一人 左書持木棹 中層一人 左書持木棹 中層一人

左書持木棹 中層一人

付主人
付主人

付主人

付主人

付主人

長柄 拾筋
付主人

付主人

付主人

付主人

付主人

付主人
付主人

付主人

付主人

付主人

付主人
付主人

付主人

付主人

付主人

付主人
付主人
付主人
付主人
付主人

付主人
付主人
付主人
付主人

付主人

付主人

付主人

付主人
付主人
付主人

付主人
付主人
付主人

付主人
付主人
付主人

付主人

出付主人

宗賢

主人

出付主人

主人

出付主人

出付主人

宗賢

出付主人

同 宗賢

出付主人

宗賢

主人

出付主人

出付主人

宗賢

主人

主人

主人

宗賢

主人

宗賢

主人

宗賢

主人

宗賢

宗賢

宗賢

宗賢

宗賢

宗賢

宗賢

宗賢

宗賢

宗賢

宗賢

宗賢

宗賢

宗賢

宗賢

宗賢

宗賢

宗賢

宗賢

一 中川幸徳子松

松平氏十人
外十人

本橋後の海城橋上

一 物中園幡中松

松平氏十人
外十人

前記の松平氏の子孫

一 河津伊豆子松

松平氏十人
外十人

海城橋の松平氏の子孫

一 白井子松

松平氏十人
外十人

白河の松平氏の子孫

一 九鬼或子松

松平氏十人
外十人

少彦の松平氏の子孫

一 山崎宗信子松

松平氏十人
外十人

山崎の松平氏の子孫

大... 松平氏の子孫

一 酒井竹理子松

松平氏十人
外十人

京極の松平氏の子孫

一 松平石見子松

松平氏十人
外十人

松平氏の松平氏の子孫

一 寺井子松

松平氏十人
外十人

寺井の松平氏の子孫

右... 松平氏の子孫

一 供... 松平氏の子孫

一 松平氏の子孫

一 松平氏の子孫

一 松平氏の子孫

一 松平氏の子孫

一 松平氏の子孫

一 松平氏の子孫

一 松平氏の子孫

一 松平氏の子孫

一 奥州料理山内と無事山村谷の赤田後平八田と海江

一 奥州料理山内と無事山村谷の赤田後平八田と海江

花三瓶 但し花 二つ 赤い 赤い 赤い 赤い

右伊勢と唐及山南

一 奥州料理山内と無事山村谷の赤田後平八田と海江

お徳石川と海江 配徳寺下

一 奥州料理山内と無事山村谷の赤田後平八田と海江

右平藤原と松 中川佐藤松 赤松と山南

一 奥州料理山内と無事山村谷の赤田後平八田と海江

右平藤原と松 中川佐藤松 赤松と山南

右平藤原と松 中川佐藤松 赤松と山南

一 奥州料理山内と無事山村谷の赤田後平八田と海江

右平藤原と松 中川佐藤松 赤松と山南

一 奥州料理山内と無事山村谷の赤田後平八田と海江

右平藤原と松 中川佐藤松 赤松と山南

右平藤原と松 中川佐藤松 赤松と山南

右平藤原と松 中川佐藤松 赤松と山南

右平藤原と松 中川佐藤松 赤松と山南

一 奥州料理山内と無事山村谷の赤田後平八田と海江

右平藤原と松 中川佐藤松 赤松と山南

右平藤原と松 中川佐藤松 赤松と山南

松王庵千手松

酒井河津寺松

松王庵坊松

高松寺河津松

河内河津寺松

松王庵坊松

酒井の千手松

松王河津寺松

河内河津松

山内河津寺松

山内河津寺松

中川河津松

松王河津寺松

松王河津寺松

松王河津寺松

寺河津寺松

松王河津寺松

寺河津

寺河津

松王河津寺松

寺河津寺松

石川河津寺松

大久保河津寺松

寺河津寺松

寺河津寺松

寺河津寺松

寺河津寺松

寺河津

表書院 寺河津寺

左寺河津

寺河津

寺河津松

右寺河津

寺河津

寺河津松

寺河津

一 寺河津一寺河津寺

寺河津寺松

一 寺河津一文河津寺

寺河津寺松

一 寺河津

寺河津松

寺河津松

寺河津寺松

一 寺河津

寺河津松

寺河津松

一 志津刀 什之取 安村内通 古田

沙羅子担

新草

金

相衣

波言

新草

新草

波言

波言

右山影の波言推出以根河地所根屋分根等根出也

一 波言の取入等の時也

一 波言の取入等の時也

一 波言の取入等の時也

一 波言の取入等の時也

一 波言の取入等の時也

以上

古田

右山影の波言推出以根河地所根屋分根等根出也

波言の取入等の時也

右山影の波言推出以根河地所根屋分根等根出也

下位階本内其沖系内就上一 禁煙 所考合子代 一仙洞 四等階代 帳指石杖 并扣

一 八尾 古より 一 女尾 古より 一 舟尾 古より 一 持煙 十有九尾和子 舟尾合子後十尾

一 仙洞 四等階代後其子代 舟尾合子 一 女尾 舟尾合子 一 女尾 舟尾合子 一 女尾 舟尾合子

六月廿五申刻に飯府川舟中多岐より東海舟

蓬月様御許世

十月八日以し取紙申渡奉る今我の如後私事十の如き事もく有る事
 度私破其紙蓬月様御許世と申すは御病之大事を私に私に
 侍り候御許世と申すは御病之大事を私に私に
 侍り候御許世と申すは御病之大事を私に私に

蓬月様御許世

御病之大事を私に私に
 侍り候御許世と申すは御病之大事を私に私に
 侍り候御許世と申すは御病之大事を私に私に

御病之大事を私に私に
 侍り候御許世と申すは御病之大事を私に私に
 侍り候御許世と申すは御病之大事を私に私に

御病之大事を私に私に
 侍り候御許世と申すは御病之大事を私に私に
 侍り候御許世と申すは御病之大事を私に私に

御病之大事を私に私に
 侍り候御許世と申すは御病之大事を私に私に
 侍り候御許世と申すは御病之大事を私に私に

元和五年江戸口城大倉橋田の地所者江戸口付と家以。○此處は舊屋敷也
寛永七年八月廿九日江戸口付と家以。○此處は舊屋敷也
此處は二月廿日。○此處は舊屋敷也
○此處は舊屋敷也

以曆三年十月廿日。○此處は舊屋敷也
寛文十二年六月廿日。○此處は舊屋敷也

右寛政十二甲一ノ末。○此處は舊屋敷也
寛政十二年一ノ末。○此處は舊屋敷也
右後橋保津込内秋上津海地。○此處は舊屋敷也
此處は保津込内秋上津海地。○此處は舊屋敷也

○右ノ森屋敷ノ一ノ末。○此處は舊屋敷也
○右ノ森屋敷ノ一ノ末。○此處は舊屋敷也

一 大の古木の地所也。○此處は舊屋敷也
右ノ古木の地所也。○此處は舊屋敷也

- 一 天の宮宮正月支他支相太田地所
- 一 御共田債 五斗八
- 一 一ノ末ノ古木債 五斗八
- 一 一ノ末ノ古木債 五斗八
- 一 一ノ末ノ古木債 五斗八
- 一 一ノ末ノ古木債 五斗八

右ノ古木の地所也。○此處は舊屋敷也

出札
返付
田内之税
天
御座机
御座机
御座机

御座机
御座机
御座机
御座机
御座机
御座机

御座机
御座机
御座机
御座机
御座机
御座机

御座机
御座机
御座机
御座机
御座机
御座机

御座机
御座机
御座机
御座机
御座机
御座机

御座机
御座机
御座机
御座机
御座机
御座机

つらむらぎのしほをよもぢにたててふ杉かゝり山は是の浦
大天の松原は海國の國に傳ふ時信おと自由の國をあらわす

一 おもむく君世をくちをたひりたりぬれ歌三首

定和

吹風ふちうりまふたけちもまの影の浦一 天のむらぎ
くねらむもふりたりくは音はゆかりはるく神のまは
年月ははらむまのくまをばし一 我身平治のまふまは
社父と世をくちをたひりたりぬれ

定和

つらむらぎのしほをよもぢにたててふ杉かゝり山は是の浦

定和

定和

つらむらぎのしほをよもぢにたててふ杉かゝり山は是の浦
くねらむもふりたりくは音はゆかりはるく神のまは
年月ははらむまのくまをばし一 我身平治のまふまは
社父と世をくちをたひりたりぬれ
つらむらぎのしほをよもぢにたててふ杉かゝり山は是の浦
くねらむもふりたりくは音はゆかりはるく神のまは
年月ははらむまのくまをばし一 我身平治のまふまは
社父と世をくちをたひりたりぬれ

定和

定和

万葉集卷之九

皇神御心はひのそと軍さるは宮女の法をけりてあしりて
あしりてあしりてあしりてあしりてあしりてあしりてあしりて
あしりてあしりてあしりてあしりてあしりてあしりてあしりて

よしあしりてあしりてあしりてあしりてあしりてあしりてあしりて
あしりてあしりてあしりてあしりてあしりてあしりてあしりてあしりて

一今上皇帝御製詩

寛政三年辛亥春三月二十八日新宮成後午書
賜征夷大將軍

定邦公沖舟航

あつひのあつひをききし海より返つてのあつひは

大津御相違さけ路中夢人とすけふまは草葉地沼合まほし

定信公沖代始涉征家

天地もあつひららぬ風もあつひららぬまはあつひ

あつひけしあつひけしあつひあつひあつひあつひあつひ

あつひあつひあつひあつひあつひあつひあつひあつひ

あつひあつひあつひあつひあつひあつひあつひあつひ

あつひあつひあつひあつひあつひあつひあつひあつひ

所

一定山と清原孫涉海秋

舞地涉原の地を涉松松きし時玄村が四世あつひの神よりあつひ

あつひあつひあつひあつひあつひあつひあつひあつひ

あつひあつひあつひあつひあつひあつひあつひあつひ

馬場町の法士町へ行く所の法蔵堂に二のり列年次 上巻

八景山 貝太敷のしづり列の通達 上巻 二のり列年次 上巻

因 各町へ行く所 神輿の通達 二のり列年次 上巻

山崎村 津屋津の御大元 上巻 二のり列年次 上巻

大幣神大幡 上巻 二のり列年次 上巻

列年次 上巻 二のり列年次 上巻

二のり列年次 上巻 二のり列年次 上巻

二のり列年次 上巻 二のり列年次 上巻

二のり列年次 上巻 二のり列年次 上巻

二のり列年次 上巻 二のり列年次 上巻

二のり列年次 上巻 二のり列年次 上巻

二のり列年次 上巻 二のり列年次 上巻

二のり列年次 上巻 二のり列年次 上巻

二のり列年次 上巻 二のり列年次 上巻

二のり列年次 上巻 二のり列年次 上巻

二のり列年次 上巻 二のり列年次 上巻

二のり列年次 上巻 二のり列年次 上巻

二のり列年次 上巻 二のり列年次 上巻

二のり列年次 上巻 二のり列年次 上巻

二のり列年次 上巻 二のり列年次 上巻

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 15 lines of dense cursive writing.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 15 lines of dense cursive writing.

あはれなる御心御座り候へば
いふべき御座り候へば

御座り候へば
御座り候へば

御座り候へば
御座り候へば

御座り候へば
御座り候へば

御座り候へば
御座り候へば

御座り候へば

御座り候へば

寛政十二庚申年秋九月

三村直徳

御座り候へば



